

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日時：2018(平成30)年4月5日(木) 9:30~15:30

気象：天候=晴(12時の気温：17℃)

活動エリア：45 林班ろ-03

活動内容：人工林の林床整備(切り放し残置木の処理=玉切りと棚積み)

人工林の枝打ち

参加者：泉家恵子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、武田壽夫、宮本 廣、山 國 (計7名)

<4月初旬にしては「稀」な晴天続き>

里は勿論、参詣者駐車場のマイコンは満開で迎えてくれる。ヤマザクラに会えるのを楽しみに作業小屋へ。道々、コバノツツジも咲き初めている。今日は箕面森林事務所の江間森林官が査察に来られるとのこと、また、16日の総会開催案内の配布あり。

さて、肝心の活動地は「45 林班ろ-03」の東斜面、谷に向かって切り倒したままの間伐材が乱雑に散らばっている一帯である。小屋からは標高差で100m以上降る地点で、帰りの急登が思いやられはするが、「森の呼び声」に応えるべく、チェーンソー、その他装備を整え「勇躍」出発する。中でも枯れ枝の始末は出来るだけ高所までを、と高枝切り鋸は一番の長尺モノを準備。

天気は「晴れ」、風も弱く山仕事には有難い一日になりそうである。里道では木々の間から西の山腹のヤマザクラが目を楽しませてくれる。

<遣り甲斐のある「30度」を超える急斜面>

江間森林官は先行されていて活動地の作業道で我々を待っていた。挨拶ののち「この夏頃には一帯で間伐を入れる予定」とのお知らせがあり、早々に我々の『社会貢献の森「日本山岳会関西支部 本山寺山の森」』一帯の巡視に出発、案内は斧田氏。見送る我々は「イザ作業開始」となる。

ここ「45 林班ろ-03」一帯は谷に向かって落ちる斜面で、おまけに足下の表土は崩れやすい。上下・左右の移動はもとより、鋸を使うにも、玉切りした木や捌いた枝を棚積み位置に動かすにも足場の確保に難儀する「意地悪」な場所で、開けた地形なのが唯一の「救い」。それも与かって何とか標高差50m×幅70~80mの範囲で約0.2haの整備を終えた。安全第一で、上下作業では声を掛けあいながらの成果に今日も「満足」。and こうした作業を重ねていて嬉しいことの一つは江間さんのように第三者に山を見て貰う機会があること、それを実感した一日でもあった。

<季節の山だより一山の桜、里の桜>

郡上八幡の井上会員からは美濃の長良川河畔の桜が着信、本山寺山ではヤマザクラ。両者、乞、ご鑑賞。ただ、ヤマザクラは自然林に囲まれているので全景を撮るのは中々難しい。サクラだけを切り取ってみたい一枚である。

(本文 以上)

【①江間森林官と一緒に(終業時)】



【①の参加者紹介】

←後列右から

泉家さん、山 國さん、小櫃さん、
江間さん(森林官)、武田

←前列右から

斧田さん、宮本さん、倉谷さん

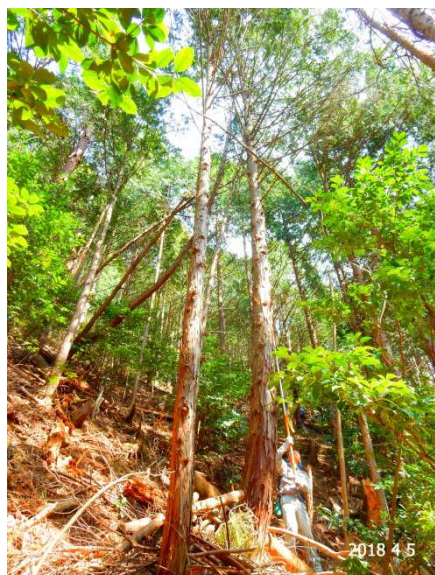
【②斜面の状況(作業前の一例)】



【③チェーンソーの活躍:こんな急斜面です】



【④奮闘!! 高所の枯枝切り】



【⑤その甲斐あって幹周りがスッキリ】



【⑥モグモグ・タイム】



【⑦足場を注意しながら懸命の作業が続く】



【⑧作業前・後の比較(作業前)】



【⑨作業前・後の比較(⑧の作業後)】



【⑩長良河畔の桜(撮影:井上会員)】



【⑪本山寺山のヤマザクラ(撮影:武田)】

